

大会宣言

本年三月に発生した東日本大震災では、働く人々を含め多くの人命が失われ、東北地方を中心に甚大な被害がもたらされた。被災された方々に心からお見舞いを申し上げるとともに、被災地が一日も早く安全に復興することを強く願うところである。

本年は産業界で安全運動が始まって百年目に当たる。この間の先人の安全にかけた思いと活動を振り返るとともに、これからの安全衛生活動のあり方を熟考することにより、安全衛生意識の一層の向上と安全衛生活動のさらなる進展を目指す必要がある。

我が国の労働災害は、関係者のたゆまぬ努力により、長期的には減少傾向にあるものの、今なお年間四十八万人の労働者が被災し、千百人を超える尊い生命が失われている。また、一度に多くの労働者が被災する重大な災害は後を絶っていない。

健康面においても、一般定期健康診断の結果、何らかの所見を有する労働者の割合は増加を続け、また仕事や職業生活に関して強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者の割合は約六割に上っており、精神障害等による労災認定件数が高い水準で推移している。

「働く人の安全と健康の確保」はすべてに優先する課題である。企業を支えるのはそこで働く人であること、また、安全で健康に働くことは企業の力の源泉であり、家族が安心して暮らせる大前提であることを再認識し、経営トップの強いリーダーシップのもと、管理監督者、安全衛生スタッフ、働く一人ひとりが一丸となって、安全衛生活動を展開していかなければならない。

具体的には、リスクアセスメント、労働安全衛生マネジメントシステムの積極的な導入・定着を図ること、機械設備の安全対策の強化や化学物質の適切な管理を推進すること、安全衛生教育や危険予知活動などの日常的な安全衛生活動を一層活発化して「現場力の強化」を図ること、また、心身両面にわたる健康づくり、とりわけメンタルヘルス対策に積極的に取り組むこと、さらに、快適な職場づくりを進めるとともに、受動喫煙のない職場の実現を図ることが必要である。

「産業安全運動100年記念」となる本大会を契機に、全ての関係者が心を新たにして、安全・健康・快適な職場づくりに向けて英知と力を結集し、全力を挙げて邁進することをここに誓う。

右、宣言する。

平成二十三年十月十二日

産業安全運動100年記念・第七十回全国産業安全衛生大会